

令和  
6年度

# COMPASS 発達支援センター丸亀 Believe

## 事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	COMPASS 発達支援センター丸亀 Believe
○保護者評価実施期間	令和6年9月10日～令和6年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 38名 (回答者数) 35名
○従業者評価実施期間	令和6年10月1日～令和6年10月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 6名 (回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月10日

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者や保護者のニーズを把握した上で支援計画を立案し、療育・支援を実施しております。アセスメントやモニタリングの際、送迎時、家庭訪問、事業所での面談などを通じて、保護者様のお話を十分にお伺いするよう努めております。	・保護者様からのご相談やご要望については、職員間で共有し、次回以降の療育・支援に活かしております。 ・送迎時には、利用状況をお伝えしたり、困りごとがなにかお声がけしたりするなど、積極的に保護者様とお話ができる機会を設けております。特にモニタリング時には、十分に詳しくお話ができるよう、資料を準備し、時間や場所を設定するなど、適切な体制を整えております。	現在の取り組みは継続してまいりますが、送迎時にお会いする機会が少ない保護者様には、電話でのご連絡も併せて行っております。今後も、事業所内での面談や家庭訪問を通じて直接お話ができる機会を増やせるよう、積極的にお声がけしてまいります。
2	学習支援だけでなく、季節の製作活動や集団活動を取り入れ、療育が固定化しないよう工夫しております。また、作業療法士が在籍しており、巧緻性の向上や身体の使い方の指導、日常生活におけるお困りごとへの支援も行っております。	・個別支援計画および専門的支援実施計画に基づき、日々の療育や支援を実施しております。 ・定期的に製作活動や集団活動を取り入れ、療育の幅を広げております。活動内容や利用児童の様子については、日々の連絡帳や事業所だより、送迎時の対話などを通じて保護者様へお伝えしております。	今後も、職員間で情報を共有しながら適切な療育内容を選定してまいります。製作活動や集団活動についても、計画的に企画・準備を行い、より充実した支援を提供できるよう努めてまいります。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設内で利用者が使用できる部屋は1つのみで、個室は設けておりません。法令で定められた基準値以上の広さは確保しておりますが、保護者様からは「狭く感じる」とのご意見をいただくことがございます。	・学校の下校時刻がおおよそ14時半～16時のため、10名以上の利用児童が同時時間帯に重なり、空間の狭さやにぎやかさを感じる場合がございます。 ・施設の構造上、ドアなどの設備を設置しにくく、完全な個室化は難しい状況です。現状では、机やパーテーションを活用して空間を仕切る対応を行っております。 ・一方で、職員が目が届きやすいことや、段差がなく移動しやすいという利点もございます。	現在、机の配置を工夫し、療育スペースと余暇スペースを分けるよう努めております。加えて、パーテーションの活用などの環境整備を継続し、新たなスペースの区切り方についても検討してまいります。活動内容に応じて場所や利用児童の組み合わせを工夫することで、できるだけ落ち着いた過ごせるよう支援してまいります。
2	地域の他の児童との交流の機会がなく、また保護者会などの交流の場を開催できておりません。	・コロナ禍以降、交流の場を設けることが難しい状況が続いております。 ・事業所以外での活動については、利用者の事故防止や安全管理の観点から、積極的に企画することが難しい状況です。	令和5年度以前と比較すると、令和6年度は施設見学や屋外での活動など、事業所外での取り組みを増やすことができております。事業所外での保険適用についても確認し、安全に活動を実施できているため、今後も継続してまいります。また、利用者や保護者様のご要望を伺いながら、地域交流の場や保護者同士の交流の機会を設けることについて、前向きに検討してまいります。
3			